

4. ゆり

・殺菌剤

| FRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|---------------|------|------|------|----|
| M5 | ダコニール1000 | 散布 | - | 6回以内 | |
| 1 | トップジンM水和剤 | 散布 | - | 5回以内 | |
| 19 | ポリオキシソールAL水溶剤 | 散布 | 発病初期 | 8回以内 | |

・殺菌剤 (参考農薬)

| FRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|-----------|------|------|------|----|
| 9 | フルピカフロアブル | 散布 | 発病初期 | 5回以内 | |
| 29 | フロンサイド水和剤 | 散布 | 発病初期 | 3回以内 | |

・殺虫剤

| IRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|-------------|------|------|------|-----------------|
| 4 | アドマイヤーフロアブル | 散布 | 発生初期 | 5回以内 | 花き類・観葉植物(きくを除く) |
| 1 | オルトラン水和剤 | 散布 | 発生初期 | 5回以内 | 花き類・観葉植物 |
| 1 | マラソン乳剤 | 散布 | 発生初期 | 6回以内 | 花き類・観葉植物 |

・殺虫剤 (参考農薬)

| IRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|------------|---------|------|------|---|
| 1 | オルトラン粒剤 | 株元散布 | 発生初期 | 5回以内 | 花き類・観葉植物(きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たであいを除く) |
| 4 | ベストガード粒剤 | 生育期株元散布 | 発生初期 | 4回以内 | 花き類・観葉植物(きく、きんせんかを除く) |
| 4 | モスピラン顆粒水溶剤 | 散布 | 発生初期 | 5回以内 | 花き類・観葉植物(ストック、りんどうを除く) |

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。
 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

病害虫名 (F:菌類病、B:細菌病、V:ウイルス病、O:その他の病原体)

| 病害虫名 | 防除時期 | 防 除 方 法 | 注 意 事 項 |
|--------------|--------|---|--|
| 疫 病 (F) | | 1. 連作をできる限り避ける。 2. 前作の発病株残さは、ほ場外に埋却する。 | 1. 土壌が過湿になり過ぎないように注意する。 |
| 葉 枯 病 (F) | 5月～10月 | 1. 施設内が過湿にならないよう密植を避け、換気する。 2. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 3. ダコニール1000の1,000倍液、トップジンM水和剤1,500倍液、ポリオキシソールAL水溶剤2,500倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. フルピカフロアブル、又はフロンサイド水和剤の2,000倍液を散布する。 | 1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統剤を連用せず、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。 |

| | | | |
|------------------------|----------|---|---|
| ウイルス性 病害 (V) | 生 育 期 間 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、ウイルスフリー苗を用いる。 2. アブラムシ類防除のため、アブラムシ類の項、又は「25. 花き類・観葉植物」の項を参考に、定期的に殺虫剤を散布する。 3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので除草する。 4. 罹病株から順次、二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 育苗時の感染に嚴重注意する。 2. ゆりに発生している県内の主要なウイルスは、CMV、LSV、LMOVである。 |
| アブラムシ類 (ウイルス 媒介) | 8 月～10 月 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オルトラン水和剤 1,000 倍液、アドマイヤーフロアブル、マラソン乳剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。 <p>[参考農薬]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オルトラン粒剤を 10a 当り 3～6 kg、又はベストガード粒剤を 1 株当り 1～2 g を株元散布する。 2. モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液を散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルス発病株は抜き取る。 2. アドマイヤー、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 |
| ネ ダ ニ | 定 植 前 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 球根は 45℃の温湯に 60 分間浸漬する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 常発地では連作しない。 2. 定植に際し、堆肥と球根が接触しないように注意する。 |
| コウモリガ | 生 育 期 間 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 被害株は見つけ次第取り除き、食入幼虫を捕殺する | |